



第3部

国際シンポジウム

アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神
～「架け橋女性」とのネットワークを通じて広げよう～



第3部：国際シンポジウム

アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神
～「架け橋女性」とのネットワークを通じて広げよう～

	東京会場	大阪会場
開催日時・場所	日時：2017年11月12日（日） 場所：京王プラザホテル （東京都新宿区） 架け橋女性招聘人数：21名 一般参加者数：96名	日時：2017年12月17日（日） 場所：大阪新阪急ホテル （大阪府大阪市） 架け橋女性招聘人数：8名 一般参加者数：71名
概要	<p>本シンポジウムは「アジア・太平洋輝く女性の交流事業」の一環として開催され、我が国とアジア太平洋諸国において活躍している国内外の「架け橋女性」の活躍に焦点を当てたものである。昨年度に引き続き、本年度においても、架け橋女性の起業、企業勤務等における活躍の実態、アジア・太平洋諸国と日本の両方での経験から感じた魅力や今後の活躍における課題等について明らかにするため、架け橋女性を招聘し、シンポジウムを行った。</p> <p>シンポジウムにおいては架け橋女性や本事業の調査検討委員会の委員による、基調講演やパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションにおいては、本年度のシンポジウムのテーマでもあるキャリアの中で必要となる人的な「ネットワーク」等を中心に活発な議論が行われた。</p> <p>また、グループディスカッションは、一般参加者が少人数のグループに分かれた上で、各グループに1～2名の架け橋女性に加わって実施された。全員で女性の起業における課題や、女性の目指すリーダー像といったトピックに関するグループワークに取り組みつつ、一般参加者と架け橋女性の間では、活発な質疑応答や意見交換が行われた。</p> <p>シンポジウムの後には懇親会が行われ、グループディスカッションに引き続いて、活発な交流やネットワーキングが行われた。</p>	





プログラム

時間	東京会場	大阪会場
13:00~13:05	【開会挨拶・ビデオメッセージ】 野田 聖子 内閣府特命担当大臣（男女共同参画）、女性活躍担当大臣	
13:05~13:20	【本事業について】 大沢 真知子 氏 （日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キャリア研究所 所長）	【本事業について・調査概要の報告】 佐々木 ジャネル 氏 （EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 エグゼクティブ・ディレクター）
	【調査概要の報告】 佐々木 ジャネル 氏 （EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 エグゼクティブ・ディレクター）	
13:20~13:40	【基調講演】 『「やらず後悔」が一番残念 —女性起業家精神で広がる世界—』 三原 理絵 氏 （株式会社誠や 代表取締役CEO）	【基調講演】 『ワクワクとグラグラが未来を創る』 奥田 浩美 氏 （株式会社ウィズグループ 代表取締役）
13:40~14:25	【パネルディスカッション】 『成功の鍵 ネットワークを広げよう！女性たち—今こそ行動のとき』	
	〔パネリスト〕 白木 夏子 氏 （株式会社HASUNA 代表取締役） 濱田 真里 氏 （株式会社ネオキャリア海外事業部 編集ディレクター／ABROADERS編集長） 橘 幸帆 氏 （ユネットインターナショナル株式会社 社長） 繁田 奈歩 氏 （株式会社インフォブリッジマーケティング&プロモーションズ 代表）	〔パネリスト〕 濱田 真里 氏 （株式会社ネオキャリア海外事業部 編集ディレクター／ABROADERS編集長） 三原 理絵 氏 （株式会社誠や 代表取締役CEO） 宮城 治男 氏 （NPO法人ETIC.（エティック） 代表理事） 村田 早耶香 氏 （認定特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト 共同代表）
	〔モデレーター〕 奥田 浩美 氏 （株式会社ウィズグループ 代表取締役）	〔モデレーター〕 文 美月 氏 （リトルムーンインターナショナル株式会社 取締役副社長）
14:35~15:50	【グループディスカッション】 『女性起業家・リーダーが直面する課題、なりたい起業家・リーダー像について』	
15:50~16:00	【グループディスカッション総括】	
	大沢 真知子 氏 （日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キャリア研究所 所長）	奥田 浩美 氏 （株式会社ウィズグループ 代表取締役）
16:00~16:05	【閉会挨拶】 武川 恵子（内閣府男女共同参画局長）	

第3部：国際シンポジウム

アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神 ～「架け橋女性」とのネットワークを通じて広げよう～

基調講演・パネルディスカッション 骨子

■東京会場

【基調講演】『「やらず後悔」が一番残念 ―女性起業家精神で広がる世界―』

三原 理絵 氏（株式会社誠や 代表取締役CEO）

三原氏からは初めに、3.11 東日本大震災後のボランティア活動の際に出会ったパキスタンの人々との出会いが、後にご自身がパキスタンに渡り、起業に至るきっかけになったことが語られた。その後、パキスタンにおける乳幼児の高い死亡率、その大きな理由でもある衛生的な水へのアクセスが難しいこと、あるいは識字率が低いために農村部を中心に衛生に関する知識を十分に得られないことなど、現地における公衆衛生上の課題に応えるために、様々な工夫を凝らしながら複数の事業を展開している様子が紹介された。そしてご自身の生き方として、「失敗したらどうしよう」と考えるよりも、「どうやったら出来るか」という風に、何事も前向きに捉えて行動していきたいという思いが語られた。

【パネルディスカッション】『成功の鍵 ネットワークを広げよう！女性たち-今こそ行動のとき』

シンポジウムのテーマでもあるネットワークに関しては、起業や事業に資するネットワーク作りのためにパネリストの方々が意識していることとして、意図的に直接ビジネスには関わりのない業界・職種の人達とつながるようにしていること、必要な情報を得るためにも常に自分から発信し続けること、相手にもベネフィットを与えられる関係性を作ることなどが挙げられた。

また、人とのネットワークを通じて、定期的に自分自身が違和感を覚える場所、惨めに思える場所に取って身を置く機会を作ること、自分が更に成長しようと思うきっかけにしているという意見が、複数のパネリストから聞かれた。

その他、ネットワークに関する事柄以外にも、会場の一般参加者から事前に寄せられた質問に対して、パネリストより自身の経験を踏まえたアドバイス等が送られた。

■大阪会場

【基調講演】『ワクワクとグラグラが未来を創る』

奥田 浩美 氏（株式会社ウィズグループ 代表取締役）

奥田氏からは初めに、現在ご自身が取り組んでいる事業・活動として、IT領域におけるカンファレンス・イベントなどのプロデューサー、起業家支援、ロボット事業などが紹介された。その後、現在のような様々な仕事を手掛けるに至った背景として、ご自身がインドでの学生時代、社会福祉を学びながら感じた無力感や劣等感があることが語られた。そして、インドでの経験を通じた気づき・学びとして、自分自身が弱くて何も出来ない人間だったとしても、弱いからこそ、強い思いを持ち続けることで周囲のサポートを得たり、多くの人を巻き込んでいくことができるということが紹介された。最後に、常に時代の変化を感じながら自分が「ワクワク」する方向を向き、足元が「グラグラ」とする不安定さは、逆に将来の可能性を示すものと捉えてはどうかという、前向きなメッセージが送られた。

【パネルディスカッション】『成功の鍵 ネットワークを広げよう！女性たち-今こそ行動のとき』

シンポジウムのテーマでもあるネットワークに関しては、「架け橋女性」のパネリストからは、創業期にビジネスコンペに出て、社会的に信頼のある審査員とのつながりを作ったり、日本貿易振興機構（JETRO）、国際協力機構（JICA）などの公的機関を上手く活用してビジネスの基盤となるネットワークを広げたことなど、実体験に基づくエピソードが紹介された。また、必要な人と必要なタイミングでつながるネットワークを築くコツとして、「自分とは何か、自分はこういった人とつながりたいのか」をより明確にしていることが重要だというアドバイス等があった。

その他、ネットワークに関する事柄以外にも、会場の一般参加者から事前に寄せられた質問に対して、パネリストより自身の経験を踏まえたアドバイス等が送られた。



野田 聖子 内閣府特命担当大臣（男女共同参画）、女性活躍担当大臣メッセージ

内閣府特命担当大臣（男女共同参画担当）、女性活躍担当大臣の野田聖子です。

本日は、シンポジウム「アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神」に御参加いただき、誠にありがとうございます。

我が国は、戦後、平和国家として、隣人であるアジア・太平洋諸国と共に歩んでまいりました。国同士の友好・信頼関係は、国民の草の根の交流や経済を通じた人と人とのつながりによって、より強いものとなります。戦後70年を迎えたことを契機に、昨年度より、特に女性の交流を通じてこの歩みを更に進め、友好・信頼関係を深化させるため、アジア・太平洋諸国と我が国の架け橋となってきた女性の知見・経験を共有し、交流を深める本事業をスタートいたしました。

本日この場にご招待させていただいた皆様が、これまで特に起業や企業勤務を通じて、我が国の魅力を海外に広めたり、また、海外の視点を我が国に広げたりと、まさにこの地域の友好・信頼関係の構築のための架け橋となっ

ただいていることに、心より感謝申し上げます。

また、将来架け橋となって活躍していきたいと考えている方々、また、そうした女性達を支援して下さる方々を含め、多くの皆様方にこうしてお集まりいただけたことを、大変嬉しく思っております。

我が国は、世界に先駆けて人口減少社会に突入します。今後、いかにして労働力人口を維持し、また、生産性やイノベーション力を引き上げていけるかが持続的成長の最大の課題です。この点、「女性は我が国最大の潜在力」であり、働くことを希望する女性が仕事を持つようになるだけでなく、働く女性がその希望に応じ能力を十分に発揮できる社会を実現できるかが、その解決の鍵となります。

安倍内閣では、「すべての女性が輝く社会」の実現を成長戦略の一丁目一番地と位置付け、様々な取組を推進してきました。特に、平成28年4月の女性活躍推進法の完全施行により、我が国の女性活躍の推進に向けた政策は新たなステージに入っています。

そして、本日のシンポジウムのテーマの柱となっている「起業」については、女性のキャリア形成の面からだけでなく、創造性と生産性を高める原動力として注目されているところです。女性の起業が増えることで、これまでになかった女性の視点が多くもたらされ、付加価値の高い商品や利便性の高いサービスの創造につながります。

本日のシンポジウムのパネルディスカッションやグループディスカッションにおいては、起業家や企業人として活躍されている架け橋女性の魅力を直に感じて頂き、将来の職業選択のための参考や、未来を展望する起業家との出会いのきっかけとして頂ければと思います。

こうした機会を通じて、将来の架け橋女性、あるいは架け橋女性の良きサポーターが生まれ、個性と能力を生かして輝く女性が増えることにより、我が国、ひいてはアジア・太平洋地域の女性活躍推進のムーブメントが一層広がっていくことを願っております。

最後になりますが、本日のシンポジウムが皆さまにとって実り多きものになりますことを心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第3部：国際シンポジウム

アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神
～「架け橋女性」とのネットワークを通じて広げよう～

参加者の声（グループディスカッション）

グループディスカッションにおいては、一般参加者と架け橋女性（各テーブル1～2名）がグループとなり、主に起業にあたっての課題や心配事、目指していきたいリーダー像に関しての、議論・質疑応答を行った。ディスカッションのポイントは以下の通り。（以下、「参加者からの挙げられた課題や心配事」は複数のグループで共通して議論された事項を抽出しており、「架け橋女性からのアドバイス／参加者からの意見等」には異なるグループで出されたコメントが含まれている。）





参加者から挙げられた 課題や心配事	架け橋女性からのアドバイス ／参加者からの意見等
1. ワークライフバランスの確保／ライフイベントとの両立	<ul style="list-style-type: none"> ▶ キャリアと私生活の両方で、やりたいことをリスト化して、全ての計画を立てることが有効。 ▶ あまり知られていないこともあるが、自治体ではかなり便利なサービスを提供していることもあり、一度調べてみることをお勧めする。 ▶ 全てを自分でやり切ることは不可能。周囲のサポートが欲しい時には、遠慮をせずに声をあげること。 ▶ 子育てと仕事の間で、いろいろと悩むことも多いが、優先順位付けや取捨選択により、両立は必ず出来る。 ▶ 日本の女性は女性に対して厳しいのではないか。(家庭の仕事以上にキャリアを優先することに対して) ▶ 日本の女性だけが、家庭の仕事も全て抱え込んでしまっているように思う。アジアではメイドさんを雇ったり、家事代行サービスを柔軟に活用したりしている。 ▶ 他国ではキャリアでも家庭の仕事でも、男女がより同じ土俵に立っていると思う。裏を返せば、職場において女性に対して求められる働きが、日本以上に大きく、要求も厳しいことを意味する。 ▶ 人によって「バランス」の意味するところは異なる。私の家庭では、夫が家事についても全面的にサポートをしてくれているが、それは夫がすごいからではなく、パートナーシップだから。 ▶ 女性に対してだけワークライフバランスに関する質問が出るような状況は、社会としてバイアスがあることを示しているのではないか。
2. 海外での起業における言語の問題	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ローカルの言語が出来ないと、ローカルの人々と本当の意味でのコミュニケーションは出来ないのではないか。 ▶ マレーシアにおいては、行政手続き等は英語で完結するが、マレー語が出来た方が、現地の人々と仲良くなり易く、コミュニティも広がる。 ▶ 海外での起業を考えるのであれば、少なくとも英語は必要。それに加えて、ローカルの言語が出来ると良い。
3. 資金調達の問題	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 最初はスモールスタートが重要。小さな約束を守ることを積み重ねることで、次第に信頼を得られ、資金問題を相談できるような関係先を作ることができる。 ▶ 海外では日本に比べて、リスクをとって新しいことをすることに対して理解があるのではないか。どのような事業をしたいのか、目的は何か、社会的にどのような意義があるかを明確に説明できれば、道を切り開くことができるのではないか。 ▶ 私の場合はセミナーや講演を中心としたビジネスモデルのため、コストはあまりかからず、資金調達面での問題は大きくなかった。 ▶ 外部の資金を入れなくても、ビジネスを維持していけるオプションは考えておく必要がある。

第3部：国際シンポジウム

アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神 ～「架け橋女性」とのネットワークを通じて広げよう～

4. 海外の環境、文化へ 適応	<ul style="list-style-type: none">▶ ローカルの文化への尊敬の念を持つことが一番大切。▶ 結局は人対人の問題なので、相手を尊重すること。▶ 何かひとつ、自分自身の専門性を持ち、それを通じて社会に貢献できるという軸を持つことができれば、海外でも受け入れてもらうことができ、どこでも仕事ができる。▶ 自分の中で覚悟が出来ていないと、相手にも受け入れてもらいにくい。逆に本当にやりたいという強い思いを持ち、それに則った行動を取っている人は、受け入れられ、応援してもらえることが多い。▶ 外国人として日本で事業を行っていたが、日本ではどんなに女性が自立していても、家事や育児全般は女性が行うものという考えが根付いているため苦労が多かった。一方で、そうした経験を通じて、日本人のような忍耐強さを学んだ。
5. モチベーション源泉 ／ストレス解消の 方法	<ul style="list-style-type: none">▶ 起業家になれば、良いことも悪いことも全て自分の責任。それが面白さであり、モチベーションにもつながっている。▶ 大変なこともあるが、本当に熱中している時には、苦労を苦労と感じない。▶ 好きなことをして生きていきたいというのが、今の仕事を続けているモチベーションである。好きなことであれば、困難があっても乗り越えられる。▶ ひとりひとりが持つ人間の可能性を発見し、皆がその能力を持ち寄ることで豊かになれる社会を作ること。▶ ネガティブな感情を持っていると、巡り巡ってまたネガティブなことが起こり、結局自分がますます大変になるということが分かった。そのため意識して、気晴らしのイベントを作るようにしている。

「目指したいリーダー像」に関して挙げられた意見（抜粋）

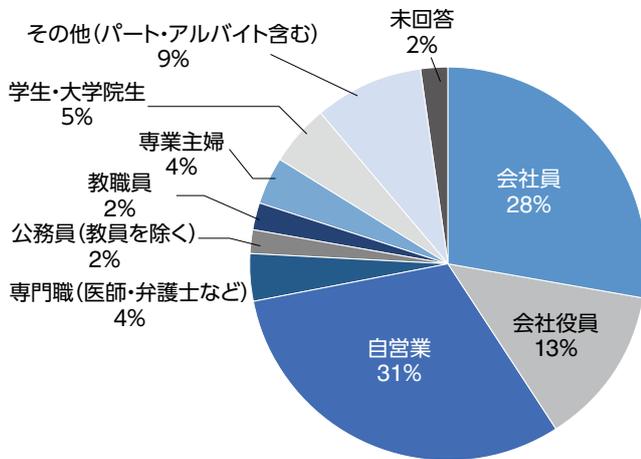
- ▶ 自分と相手と社会の「三方良し」を実現できるリーダー。
- ▶ ひとりひとりに合ったリーダー像がある。必ずしも型にはまったスタイルが有効とは思わないが、起業をする上では周りのサポートは必要不可欠なので、そうしたサポートを受けられるようなリーダーを目指したい。
- ▶ 困っている人を助けられるようなリーダー。
- ▶ 社会的課題に対する解決力のあるリーダー。
- ▶ 若い女性達に活力を与えられるリーダー。
- ▶ フットワークが軽いリーダー。
- ▶ サポートを得られるように周りを巻き込むこともリーダーシップのひとつ。
- ▶ 完璧に全てをこなすことが、良いリーダー、経営者とは言えない。完璧にいかないことの方が多いためこそ、頑張り過ぎず、時にはできないことを認め、他人に任せて手放す勇気も必要。



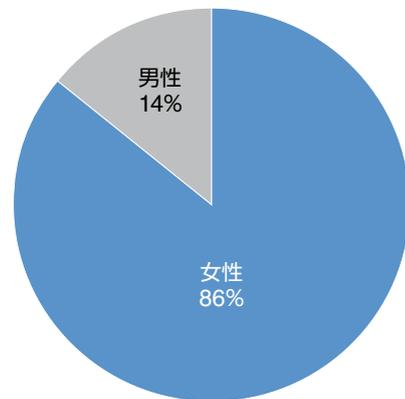
参加者アンケート結果

■東京会場（回答者数：57名、回答率：59%）

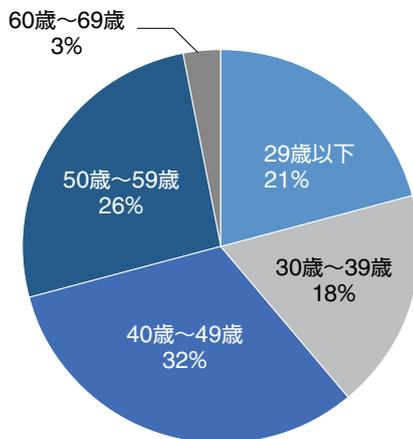
1. 職業



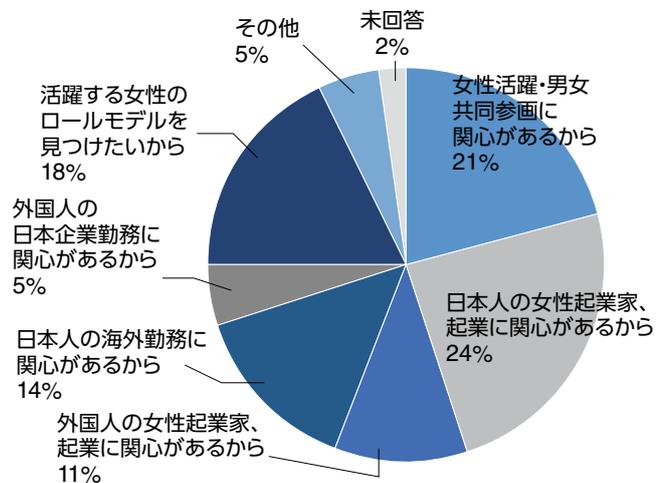
2. 性別



3. 年齢



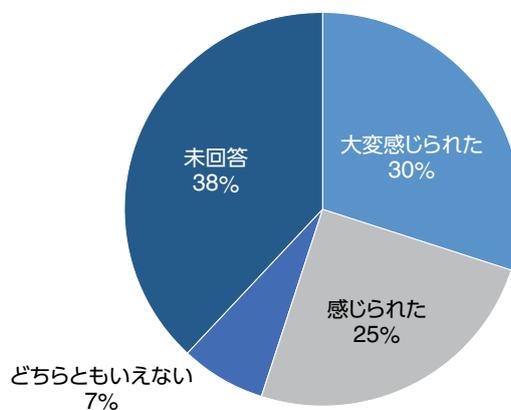
4. シンポジウムの参加目的



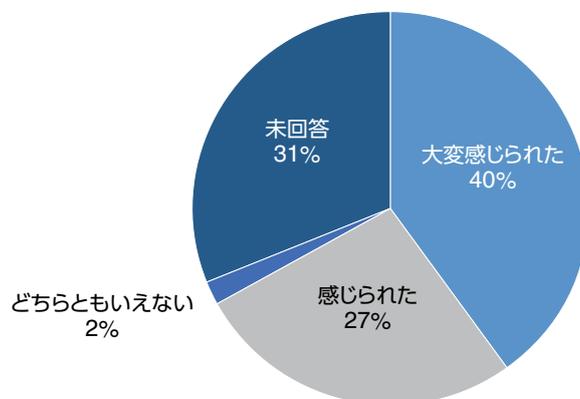
第3部：国際シンポジウム

アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神
～「架け橋女性」とのネットワークを通じて広げよう～

5. 基調講演者、パネリスト、招聘者として参加された女性起業家・企業人はご自身にとってロールモデルになりうると感じられましたか。



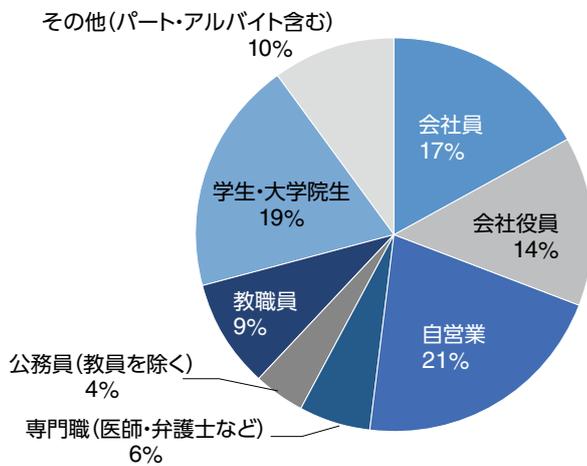
6. 本日のシンポジウムは今後皆さんのキャリア形成を考える上で、参考になると感じられましたか。



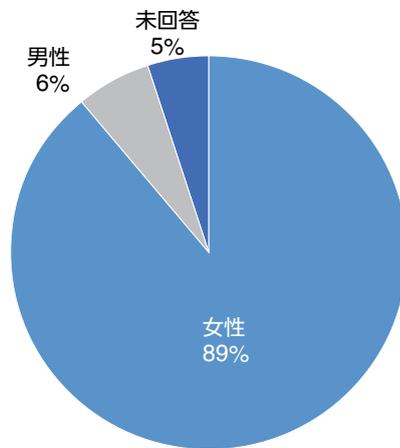


■大阪会場（回答者数：67名、回答率：94%）

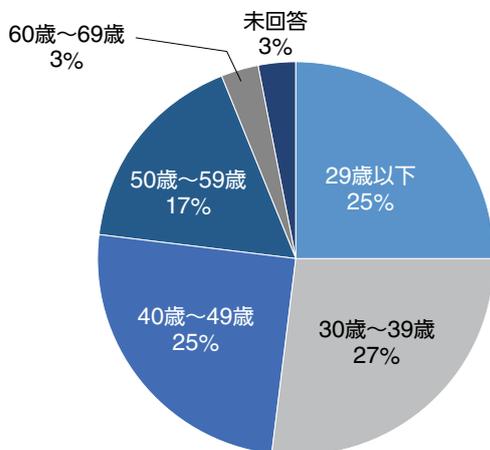
1. 職業



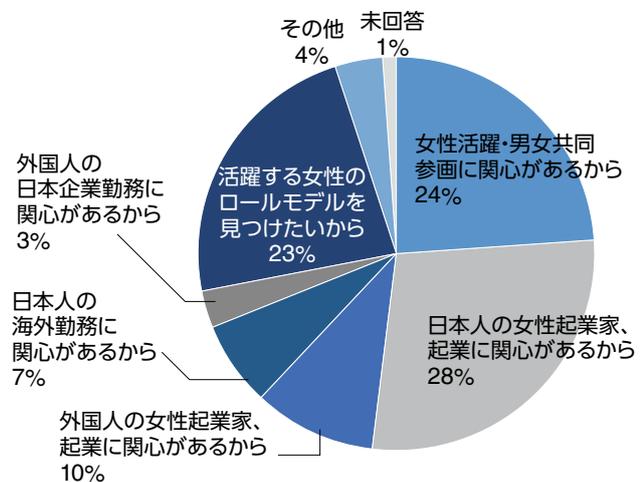
2. 性別



3. 年齢



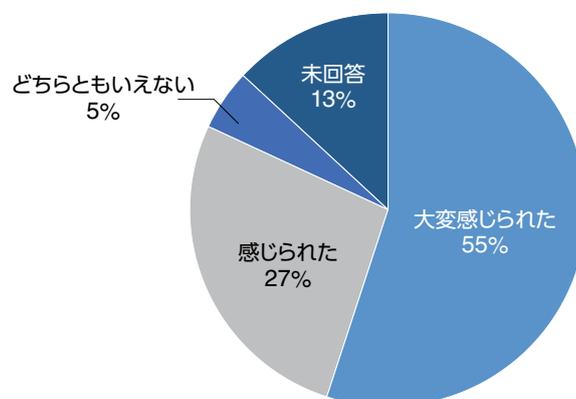
4. シンポジウムの参加目的



第3部：国際シンポジウム

アジア太平洋と日本を結ぶ女性起業家精神
～「架け橋女性」とのネットワークを通じて広げよう～

5. 基調講演者、パネリスト、招聘者として参加された女性起業家・企業人はご自身にとってロールモデルになりうると感じられましたか。



6. 本日のシンポジウムは今後皆さんのキャリア形成を考える上で、参考になると感じられましたか。

